

番号： 160886

国名：タンザニア

担当部署：農村開発部農業・農村開発第二グループ第四チーム

案件名：県農業開発計画（DADPs）灌漑事業推進のための能力強化計画プロジェクトフェーズ 2（頭首工設計ガイドライン作成支援）

1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務：頭首工設計ガイドライン作成支援
- (2) 格付： 4 号
- (3) 業務の種類：専門家業務

2. 契約予定期間等：

- (1) 全体期間：2017 年 1 月上旬から 2017 年 3 月下旬まで
- (2) 業務 M/M：国内 0.65M/M、現地 1.50M/M、合計 2.15M/M
- (3) 業務日数： 準備期間 現地活動期間 整理期間
5日 45日 8日

3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、方法

- (1) 簡易プロポーザル提出部数：1 部
- (2) 見積書提出部数：1 部
- (3) 提出期限：11 月 30日 (12 時まで)
- (4) 提出方法：専用アドレス (e-propo@jica.go.jp) への電子データの提出又は郵送(〒 102-8012 東京都千代田区二番町 5 番地 25 二番町センタービル) (いずれも提出期限時刻必着)

提出方法等詳細については JICA ホームページ（ホーム>JICA について>調達情報>調達ガイドライン、様式>業務実施契約（単独型）（2014 年 4 月以降契約）>業務実施契約（単独型）簡易プロポーザルの電子提出について）

(http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_gt/20150618.html) をご覧ください。なお、JICA 本部 1 階調達部受付での受領は廃止しておりますので、ご持参いただいても受領致しかねます。ご留意ください。

- (5) 評価結果の通知：提出されたプロポーザルは JICA で評価・選考の上、各プロポーザル提出者の契約交渉順位を決定し、2016 年 12 月 14 日（水）までに個別に通知します。

4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針等
 - ①業務実施の基本方針 16 点
 - ②業務実施上のバックアップ体制等 4 点
 - (2) 業務従事者の経験能力等
 - ①類似業務の経験 40 点
 - ②対象国又は同類似地域での業務経験 8 点
 - ③語学力 16 点
 - ④その他学位、資格等 16 点
- (計 100 点)

類似業務	灌漑施設に係る設計・施工業務
対象国／類似地域	タンザニア／全途上国
語学の種類	英語

5. 条件等

- (1) 参加資格のない社等：なし
- (2) 必要予防接種：以下の資料のタンザニアに関する情報を参照願います。
「国別渡航情報一覧」
<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/abroad.html>

6. 業務の背景

タンザニアにおいて、農業セクターは GDP の約 4 分の 1 及び輸出額の約 2 割を占めており、同国における経済成長の核であるとともに貧困削減の鍵となっている。

またタンザニアでは、2006 年に策定された「農業セクター開発プログラム (Agricultural Sector Development Programme: 以下、ASDP)」の実施を通じて灌漑開発を推進しているものの、約 210 万 ha の目標値に対して 2014 年現在で約 46 万 ha の灌漑開発に留まっている。

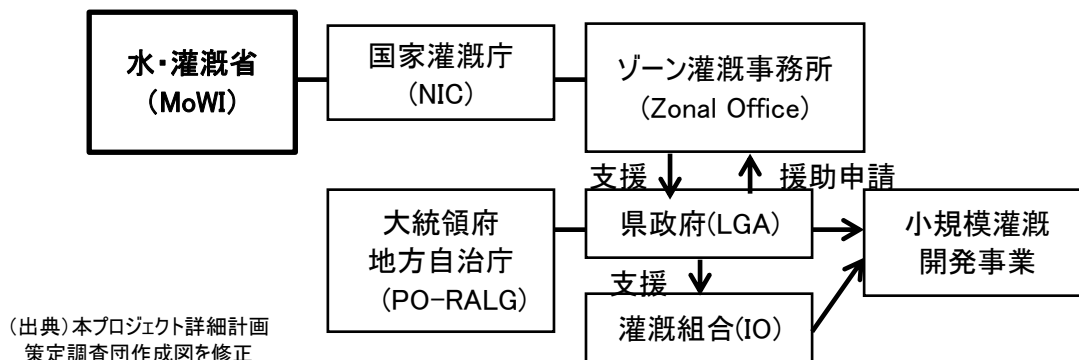
タンザニア政府は ASDP の下、500ha 以下の小規模灌漑事業の実施主体を中央政府（国）から地方政府（県）へ移管し、県灌漑開発基金（以下、DIDF）を通じて灌漑開発の予算を県に配布し、灌漑開発を推進している。しかし、県による灌漑開発事業が困難であったことから、JICA は、県による自立的な灌漑事業の計画・実施を支援するために、技術協力プロジェクト「県農業開発計画 (District Agriculture Development Plans: 以下、DADPs) 灌漑事業ガイドライン策定・訓練計画」を 2007 年 1 月から 3 年間にわたり実施した。その中で、県灌漑技術者による灌漑事業の調査計画から設計、施工、維持管理に至る各段階を包括した作業及び手順を定めた包括的灌漑事業ガイドライン（以下、CGL）を策定した。これを踏まえて、JICA は CGL を全国に普及し、全国の灌漑技術者の事業実施能力を強化することを目的とする技術協力プロジェクト（「県農業開発計画 (DADPs) 灌漑事業推進のための能力強化計画」（以下、前フェーズプロジェクト））を 2010 年 12 月から 2014 年 6 月まで実施した。また、現在、119 の灌漑スキームにおいて、新規灌漑施設の建設、既存施設の改修等を行い、コメを中心とする農業生産性の向上、貧困削減を目指す円借款事業「小規模灌漑開発事業」(SSIDP) (2013 年 5 月～2017 年 3 月) が進行中である。

前フェーズプロジェクト終了後、灌漑開発事業はタンザニア政府により継続され、CGL が活用されているが、新灌漑法が制定され、それに伴う灌漑行政の体制変更や、人材育成計画の作成など、タンザニアの灌漑行政にかかる実施体制に変化がある。灌漑開発事業の質を確保しつつ効率的にするためには、灌漑開発業務を担うゾーン事務所及び県事務所の技術者の能力強化が必要とされ、その具体的方策として灌漑開発において重要な部分を占める水源施設（頭首工）や水路の設計、リハビリテーション（以下、リハビリ）にかかる簡便な技術マニュアルやガイドラインの整備が急務となっている。

かかる状況を受け、タンザニア政府は、新灌漑法を踏まえた灌漑人材の能力強化を目的とする「県農業開発計画 (DADPs) 灌漑事業推進のための能力強化計画プロジェクトフェーズ 2」（以下、本プロジェクト）の実施にかかる支援を我が国に要請し、JICA は 2015 年 8 月から 2019 年 8 月までの期間で協力を行っている。本プロジェクトでは、ゾーン灌漑事務所及び県灌漑事務所の灌漑技術者の灌漑計画・施工能力及び灌漑維持管理能力の向上を通じて、CGL に沿った灌漑開発事業の改善・推進を図っている。本プロジェクトでは国家灌漑庁 (NIC) 及びゾーン灌漑事務所の灌漑技術者と JICA 専門家をメンバーとし、計画・施工及び維持管理に係るタスクグループ（以下、TG）を設置し、標準設計、リハビリ等のマニュアル作成、灌漑データベースの構築等に係る活動を実施している。また、本プロジェクトでは、上述の「小規模灌漑開発事業」SSID で策定されたマニュアルを活用することとしている。

本業務は、現在 NIC が予定している頭首工設計ガイドラインの作成に資する情報収集・分析を行うことを目的とする。

なお、タンザニアにおける小規模灌漑開発事業の行政の実施体制を以下に示す。



7. 業務の内容

本業務従事者は JICA 職員及び本プロジェクトの長期専門家等と密な調整を図りつつ、次の業務を実施する。

具体的な業務内容は以下のとおり。

(1) 国内準備期間 (2017年1月上旬～1月中旬)

- ① 前フェーズプロジェクトに関する各種報告書、ガイドライン、フェーズ 2 プロジェクトの詳細計画策定調査報告書 (2015 年 1 月～2 月実施分の調査結果をまとめたもの)、現在実施中の SSIDP の業務を実施しているコンサルタントにより作成された各種ガイドライン、フォーマット等の内容を把握する。
- ② 上記を踏まえ、タンザニアの状況に適した頭首工設計ガイドラインの作成に当たって必要な現地調査項目を整理し、関係機関 (NIC、ゾーン灌漑事務所、県政府、灌漑組合) への質問票 (英文) を作成し、JICA 農村開発部経由で本プロジェクトへ送付する。
- ③ 上記準備を踏まえワークプラン (英文) を作成し、JICA 農村開発部と打合せを行い、現地派遣期間の調査方針を作成する。

(2) 現地派遣期間 (2017年1月中旬～2月下旬)

- ① 事前配布の質問票の回収に加え、本プロジェクト等がこれまでに収集した現地の自然条件 (土壌、水利条件等) に係る情報、あるいは頭首工設計ガイドラインの作成に必要な補足情報がないか確認し、必要であれば長期専門家と協力して情報を収集し整理する。タンザニアにおいては、洪水期、乾燥期の交互発生の頻発等による河床の移動や堆砂の問題など特異な現地状況を有することに留意すること。
- ② この時点で取りまとめた必要調査項目を踏まえ、タンザニア側 (NIC、ゾーン灌漑事務所、県政府、灌漑組合) により選定された灌漑地区 (2 地区程度を想定) の現地調査 (頭首工設置箇所付近の地形概況、地質概況、河川の流況及びミオ筋の状況調査など) を NIC 技術者と共同で行い、調査結果を取りまとめる。
- ③ 上記①～②を踏まえて、現地調査結果の分析を行い、同ガイドラインに盛り込まれるべき検討事項を提案する。提案内容について、事前に NIC 技術者をはじめとするタンザニア側 TG メンバーと丁寧な意見交換、摺り合わせを行うこと。
- ④ 現地調査結果の内容・分析について共有するためのワークショップを行う。
- ⑤ 上記①から④を踏まえて、現地業務結果報告書 (英文) を作成し、プロジェクト関係者及び JICA タンザニア事務所に報告・提出を行う。

(3) 帰国後整理期間 (2017年2月下旬～3月上旬)

- ① 専門家業務完了報告書(和文)を作成し、JICA 農村開発部へ提出し、活動結果に関する報告を行う。

8. 成果品等

業務の実施過程で作成・提出する報告書は以下のとおり。本契約における成果品は(3) 専門家業務完了報告書とする。

(1) ワーク・プラン

英文 3 部 (JICA 農村開発部、JICA タンザニア事務所、C/P 機関)

(2) 現地業務結果報告書

英文 3 部 (JICA 農村開発部、JICA タンザニア事務所、C/P 機関)

(3) 専門家業務完了報告書

和文 2 部 (JICA 農村開発部、JICA タンザニア事務所)

なお、上記報告書・成果品の体裁は簡易製本とし、電子データ (CD、写真データ等を含む) も併せて提出する。

9. 見積書作成に係る留意点

本公示にかかる見積書の積算を行うにあたっては、「コンサルタント等契約における見積書作成ガイドライン」

(<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>) を参照願います。留意点は以下のとおり。

(1) 航空賃及び日当・宿泊料等

航空賃及び日当・宿泊料等は契約に含みます (見積書に計上して下さい)。

航空経路は、日本⇒ドバイ/ドーハ⇒ダルエスサラーム⇒ドバイ/ドーハ⇒日本を標準とします。

10. 特記事項

(1) 業務日程／執務環境

① 現地業務日程

現地派遣期間は 2017 年 1 月 12 日～2017 年 2 月 25 日を予定していますが、ある程度の日程調整は可能です。

② 現地での業務体制

2015 年 8 月から本プロジェクトに長期専門家が派遣されています。本業務はこれら長期専門家と綿密な連携の下で業務を遂行することが求められます。本事業に係る現地プロジェクトチームの構成は、以下のとおりです (本業務の現地作業期間に派遣されている関連する専門家のみ記載しています)。

- ・ 総括/データベース (長期派遣専門家)
- ・ 計画施工 (長期派遣専門家)
- ・ 維持管理 (長期派遣専門家)
- ・ 業務調整/研修管理 (長期派遣専門家)

また、2014年4月からSSIDPのコンサルタントが業務に従事しています。今回の活動内容は、SSIDPの活動内容と密接に関連するため、同プロジェクトとの綿密な連携が求められます。

③ 便宜供与内容

- ア) 空港送迎：あり
- イ) 宿舎手配：あり
- ウ) 車両借上げ：必要な移動に係る車両の提供（市外地域への移動を含む。）
- エ) 通訳備上：なし
- オ) 現地日程のアレンジ：JICAがアレンジします。
- カ) 執務スペースの提供：NIC内における執務スペース提供（ネット環境完備予定）

(2) 参考資料

本業務に関する以下の資料を JICA 農村開発部農業農村開発第二グループ第四チーム (TEL：03-5226-8441) にて配布いたします。

- ・「県農業開発計画 (DADPs) 灌漑事業推進のための能力強化計画プロジェクト」 技術協力プロジェクト事業完了報告書
- ・「県農業開発計画 (DADPs) 灌漑事業推進のための能力強化計画プロジェクト」 専門家業務完了報告書 (チーフアドバイザー/灌漑政策専門家、参加型灌漑維持管理専門家)
- ・包括的灌漑ガイドライン (灌漑事業開発にかかるガイドライン (2016年9月改訂版))
- ・県農業開発計画 (DADPs) 灌漑事業推進のための能力強化計画プロジェクトフェーズ2 詳細計画策定調査報告書 (2015年1月~2月実施分の調査結果をまとめたもの)
- ・円借款「小規模灌漑開発事業」施工監理マニュアル、財務マニュアル、施工段階のレポートシステム案

(3) その他

- ① 業務実施契約 (単独型) については、単独 (1名) の業務従事者の提案を求めている制度ですので、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とさせていただきます。
- ② タンザニア入国に際しては、査証とは別に在留免責証明書 (Exemption Certificate:EC) または就労許可証 (Work Permit:WP) を入国前に取得する必要があります。必要書類取得にかかる手続きについて、「国別渡航情報一覧」 (<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/abroad.html>) をご参照のうえ、必要書類を速やかに提出できるよう準備をお願いします。
- ③ 現地作業期間中は安全管理に十分留意してください。現地の治安状況については、JICA タンザニア事務所などにおいて十分な情報収集を行うとともに、現地作業の安全確保のための関係諸機関に対する協力依頼及び調整作業を十分に行ってください。また、同事務所と常時連絡が取れる体制とし、特に地方にて活動を行う場合は、現地の治安状況、移動手段等について同事務所と緊密に連絡を取る様に留意することとします。また現地作業中における安全管理体制をプロポーザルに記載してください。なお、現地業務に先立ち外務省「たびレジ」に渡航予定の業務従事者を登録して下さい。
- ④ 本業務の実施にあたっては、「JICA 不正腐敗防止ガイダンス (2014年10月)」 (<https://www2.jica.go.jp/ja/odainfo/pdf/guidance.pdf>) の趣旨を念頭に業務を行うこととします。なお、疑義事項が生じた場合は、不正腐敗情報相談窓口または JICA 担当者に速やかに相談すること。

以上